請求の範囲

[請求項1] 抗Ｔ細胞抗原結合分子を含む医薬組成物であって、前記医薬組成物が血管上皮細胞成長因子（ＶＥＧＦ）阻害剤と併用することにより、サイトカイン放出症候群および／またはサイトカイン放出を予防および／または軽減および／または治療することを特徴とする医薬組成物。

[請求項2] 前記医薬組成物の投与前、または同時に、前記VEGF阻害剤が投与される、請求項１に記載の医薬組成物。

[請求項3] 前記医薬組成物の６日前、５日前、４日前、３日前、２日前、１日前または当日において、前記医薬組成物の投与前に前記VEGF阻害剤が投与される、請求項１または２に記載の医薬組成物。

[請求項4] 前記VEGF阻害剤が、抗VEGF抗原結合分子、抗VEGFR1抗原結合分子、抗VEGFR2抗原結合分子、VEGF受容体またはその断片を含む融合タンパク質、およびチロシンキナーゼ阻害剤からなる群から選択される、請求項１から３のいずれかに記載の医薬組成物。

[請求項5] 前記VEGF阻害剤が、ベバシズマブ（Bevacizumab）、ラムシルマブ（Ramucirumab）、およびアフリベルセプト（Aflibercept）からなる群から選択される、請求項１から４のいずれかに記載の医薬組成物。

[請求項6] 前記医薬組成物の投与の前または投与と同時に、コルチコステロイド（Corticosteroid）が投与されない、請求項１から５のいずれかに記載の医薬組成物。

[請求項7] 前記医薬組成物の投与の前、同時または投与後に、さらに、コルチコステロイドが投与される、請求項１から５のいずれかに記載の医薬組成物。

[請求項8] 前記コルチコステロイドが、デキサメタゾン（Dexamethasone）、その薬学的に許容可能な塩、またはその誘導体である、請求項６または７に記載の医薬組成物。

[請求項9] 前記抗T細胞抗原結合分子が、

(1) T細胞受容体複合体結合活性を有する抗体可変領域を含むドメイン、及び、

(2) 癌抗原結合活性を有する抗体可変領域を含むドメイン、

を含む、二重特異性抗原結合分子である、請求項１から８のいずれかに記載の医薬組成物。

[請求項10] 前記抗T細胞抗原結合分子が、

(1) T細胞受容体複合体結合活性を有する抗体可変領域を含むドメイン、

(2) グリピカン３結合活性を有する抗体可変領域を含むドメイン、及び、

(3) Fcγ受容体に対する結合活性が低下しているFc領域を含むドメイン、

を含む二重特異性抗体である、請求項１から９のいずれかに記載の医薬組成物。

[請求項11] 癌の治療のための、請求項１から１０のいずれかに記載の医薬組成物。

[請求項12] 前記併用により、前記医薬組成物または前記VEGF阻害剤の単剤と比較して、抗腫瘍効果が増強されることを特徴とする、請求項１１に記載の医薬組成物。

[請求項13] 前記サイトカイン放出症候群が、非腫瘍組織および腫瘍組織の、いずれか、または両方からのサイトカイン放出に起因する、請求項１から１１のいずれかに記載の医薬組成物。

[請求項14] 前記腫瘍組織が、ＧＰＣ３発現細胞を含む腫瘍組織である、請求項１３に記載の医薬組成物。

[請求項15] サイトカイン放出症候群および／またはサイトカイン放出を予防および／または軽減および／または治療するためのVEGF阻害剤。